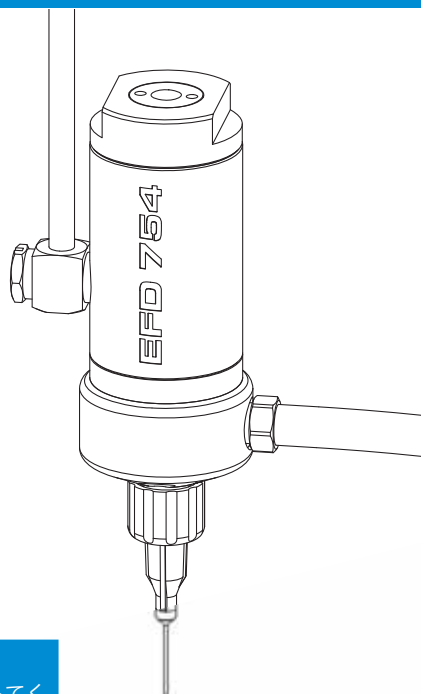


無菌バルブ754V-SS

メンテナンス・パーツガイド



重要！

このガイドは大切に保管してください。

このガイドは、メンテナンス管理者にお渡しください。

ノードソンEFDの取扱説明書のpdfファイルは、www.nordsonefd.jpからダウンロードできます。



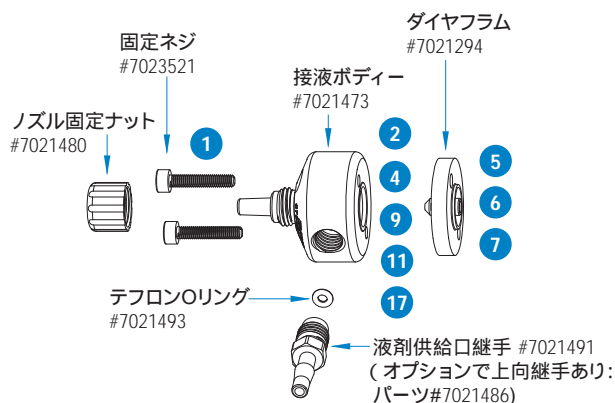
バルブの分解組立手順

接液ボディー

1. 2本の固定ネジを外します。
2. 接液ボディーを再度取り付けるには、接液ボディー、ダイヤフラム、シリンダーボディーの穴の位置を合わせ、固定ネジを挿入します。トルク1.58Nmで締めてください。

ダイヤフラム

3. ストローク調整ノブを、閉まった位置から反時計回りに2回転させて、引き出します。
4. 接液ボディーを取り外します。
5. ダイヤフラムを反時計回りに回して、ピストンロッドから外します。
6. 新しいダイヤフラムを取り付け、中程度の圧力で締め付けます
7. ダイヤフラムの穴を、シリンダーボディーの適切な固定穴に合わせるため、ストローク調整ノブの穴からマイナスドライバーをピストンロッド調整用の溝に挿し込みます
8. ロッド、ピストン、ダイヤフラムアセンブリを、それぞれの穴の位置が揃うまで時計方向に回します。
9. 接液ボディーを装着します。
10. ストローク調整ノブを、完全に閉まるまで時計方向に回し、その後適切な位置までストロークを開いてください。



ピストンOリング

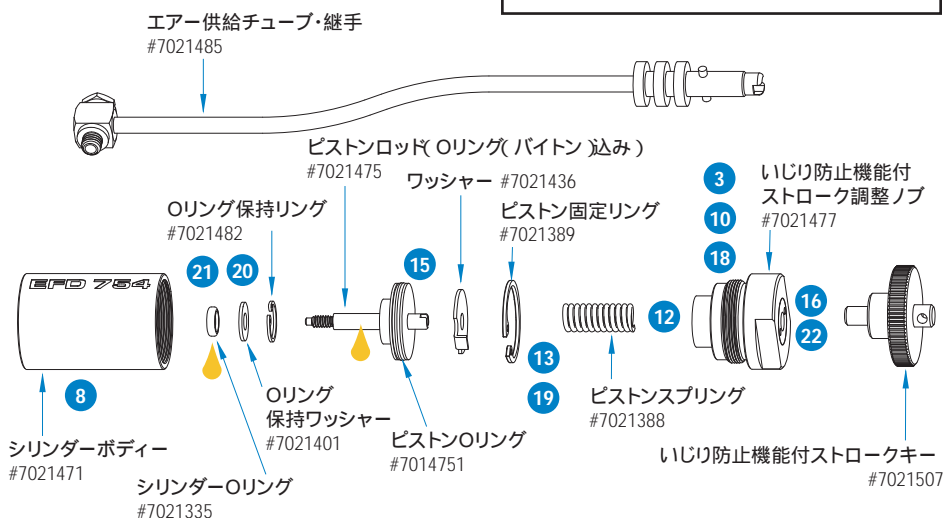
11. 接液ボディーとダイヤフラムを外します。
12. ストローク調整ノブとスプリングを、反時計回りに回して外します。
13. ピストン固定リングとワッシャーを外します。
14. ピストンを外します。
15. Oリング、ピストンロッド、エアシリンダーの内面を、Magnalube-G.で潤滑します。
16. 分解したときと逆の順序で組み立てます。

シリンダーOリング

17. 接液ボディーとダイヤフラムを外します。
18. 反時計回りに回して、ストローク調整ノブとスプリングを外します。
19. ピストン固定リング、ワッシャー、ピストンを外します。
20. シリンダーリング、ワッシャー、Oリングを外します。
21. OリングをMagnalube-G.で潤滑します。
22. 分解と逆の順番で組立ます。

使用する工具：

2.5mm六角レンチ
1/8"マイナスイヤ
6"モンキーレンチ
6"ラジオペンチ
スナップリングプライヤー



トラブルシューティングガイド

液剤が吐出されない

- バルブ駆動エアの圧力が低すぎる場合、バルブは開きません。エア圧を最低でも70psi(0.48MPa)まで上げてください。
- タンクのエア圧が充分でない。エア圧を上げてください。
- ノズルが詰まっている。ノズルを交換してください。
- ストローク調整が閉じている。ストローク調整を開いてください。
- バルブ内で液剤が固化している。接液ボディーを洗浄してください。

バルブが閉じたあと、液漏れが見られ、徐々に止まる

- この現象は、接液ボディーの吐出部にエアが溜まっている、あるいは液剤にエアが混入している場合に見られます。エアはバルブが閉じたあとに膨張し、エアが大気圧に等しくなるまで液剤を押し出します。

エアが見られなくなるまで液剤を定量で吐出し、パージを行なってください。ゲージの小さいノズルを使用している場合、ノズルアダプターからエアが抜けるのに十分な液剤が吐出しない場合があります。そのときは、ノズルと外してください。

- 液剤にエアが混入しているときは、吐出を行なう前に脱泡してください。

バルブが閉じたあと、液漏れが一定の間隔で見られる

- 一定間隔で液漏れする場合は、タンク圧が高すぎる可能性があります。タンク圧が70 psi (0.48Mpa)を超えていないかご確認ください。
- 一定間隔で液漏れする場合は、液剤の粒子が堆積しているか磨耗しているために、ダイヤフラムが完全に閉じないことが考えられます。メンテナンス方法の説

明に従い、シーリングヘッドを交換してください。

液剤が接液ボディーとダイヤフラムの間から漏れる

- 接液ボディーとダイヤフラムの間からの液漏れは、接液ボディーの環状シーリングリッジが破損している、固定ネジの取付トルクが大きすぎて接液ボディーが変形しているなどの原因が考えられます。接液ボディーを交換してください。

駆動エア入力口下の通気孔から液剤が出る。

- 駆動エア入力口のすぐ下に、放熱用の通気孔がありますが、ここから液剤が出る場合は、ダイヤフラムが破損していることが考えられます。

メンテナンス方法の説明に従い、ダイヤフラムを交換してください。

バルブ開閉のレスポンスが遅い

- バルブのレスポンスは駆動エアチューブの長さや径に関係しています。ノードソンEFDのバルブには、内径3/32"の5'のチューブが同梱されていますが、これより長い、あるいは太いチューブをご使用になると、レスポンスタイムに影響がでます。違う長さ、内径のチューブを使用していないか確認してください。

吐出が不安定

- バルブ駆動や液剤タンクへの供給エア圧が一定ではない、あるいはバルブ駆動エア圧が70 psi (0.48MPa)未満の場合、液剤吐出が不安定になる場合があります。エア圧が安定しており、駆動エア圧が70 psi (0.48MPa)に達しているかご確認ください。
- バルブの開放時間は一定である必要があります。バルブコントローラーが正しい出力を行なっているかご確認ください。